

令和7年度 江戸川区立小松川小学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	○心豊かな 思いやりのある子 ○よく考え 進んでやりとおす子 ○健康な 明るい子		目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	○「わかる」「できる」喜びを味わい、確かな学力を身に付けられる学校 ○自他ともに大切に知る知・徳・体のバランスのとれた児童 ○一人一人がやりがいを感じ、情熱をもって教育活動を実践できる教師	
前年度までの本校の現状	成果	○授業力向上、学力向上に向けた取組に対して教師の意識が高まった。 ○全教職員で全児童を見守り、児童一人一人を大切にしている組織体制を整えた。	課題	○確かな学力や主体的に学ぶ児童の育成について課題が残る。 ○個々の教師が授業力向上のための研鑽の場が少なかった。	

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価（A～D）		「中間」学校関係者評価（A～D）		「年度末」自己（学校）評価（A～D）		「年度末」学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善策
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	○授業力の向上	・校内研究会の充実。 ・相互授業参観の実施。 ・他校授業実践の参観。	・年6回の研究授業を実践。月1回の相互授業参観。年3回以上の区内外の参観。	70	80	B	・研究授業、相互授業参観を計画通り実施し、授業力向上に努めている。	B	・授業工夫が感じられ、授業力向上に努めている。	B	・年6回の研究授業と相互授業参観を月に1回実施、他区他校の授業参観に全教員が参観できた。	B	・ほとんどのクラスで落ち着いた授業を受けていた。 ・繰り返し復習できる仕組みが整っていて良い。	・校内校外での研修の機会を効果的に周知し、実りある授業実践を重ね、授業力向上を図る。
	○基礎基本の定着	・放課後学習教室、家庭学習の充実。 ・個に応じた学習の充実。	・区学力調査で全学年で全国平均を上回る。定着度調査正答率70%以上9割。	80	90	B	・全国学力調査では、国語・算数・理科ともに東京都平均を上回ることができた。	A	・3教科とも都平均を上回ったのは嬉しい。取組内容が充実した結果が表れた。	A	・区学力調査で、3～6年生の国語・算数はすべて全国平均を上回ることができた。	A	・各調査で平均値を上回っていて安心した。この調子で頑張ってもらいたい。	・全体的には今年度を踏襲。個に応じた学習に焦点を当て授業力向上を柱として改善を図る。
	○読書科の更なる充実	・他教科との関連を図り、探究的な学習を推進する。	・月2回の読み聞かせ、年3回の読書月間を活用する。	50	60	C	・取組が不十分で、手本となる実践例を基に、周知を図っていく。	C	・読書月間を活用し、読書が好きになってほしい。	C	・読書自体は好きだが、そこからの広がりや探究に発展させることができなかった。	B	・読書の幅を広げ、どんどん本を読んでほしい。	・年間計画の見直しと児童による読書週間の充実を検討させる。
体力の向上	○体力の向上	・週1回の運動遊び、年3回のなわとび週間の設定。 ・授業の中で課題を意識した補助運動を取り入れる。	・体力調査で全学年、全科目全国平均を上回る。	70	60	B	・体育の授業の中で、課題である力、動き等を取り入れている。	B	・縄跳びにより、更なる体力向上を目指してほしい。 ・授業だけでなく、家庭・地域で体力増進に取り組みたい。	C	・6月の体力調査の結果は下降。特に持久力に課題が残る。 ・縄跳びやマラソン週間での活動は計画的に実施できた。	B	・体力調査の結果を分析し、課題を克服できるようにしてほしい。地域・家庭への啓発も必要だと思う。	・20mシャトルラン、50走を中心に技能ポイントを明確にして改善を図る。
	○体育の授業力向上	・校内相互授業参観により授業改善を図る。 ・わかる、できる喜びを味わわせる。	・月1回の相互授業参観、年3回の自己申告面接等で課題を把握する。	50	60	C	・全学級の体育の授業を参観し、運動の特性を理解し、技能ポイントを明確にするよう指導した。	C	・体育授業の専門教諭の指導、教示を受けることがあってもよい。	C	・他区他校での授業実践を学ぶ機会を設けた。校内でも引き続き授業力向上に努める。	B	・良い授業実践を見ることで勉強になっていると思う。学校全体で改善に向けてほしい。	・年度当初のうちに体育の授業の決まりを全教員で確認する。
	○食育、健康教育の充実	・栄養士、養護教諭を中心に食の安全、健康の大切さに関連する教育を充実させる。	・児童に全校放送で毎日発表させる。計測等の時間を活用し年3回保健指導をする。	70	80	B	・担当と栄養士が協議し、食育教育を充実させるために出前授業を企画した。	B	・食事と生活習慣病の関係を児童に指導してほしい。 ・食育の重要性について保護者にも理解促進を図ってほしい。	B	・担当教諭が食育に関する出前授業を計画し、効果的に学習することができた。	B	・食育は大切にしてほしい。 ・タブレットのせいか、ノートに書く時の目が近いように思えるので注意が必要。	・養護教諭、栄養士を中心に健康についての正しい知識と実践を促していく。
実現に向けた教育の推進	○ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の充実	・ユニバーサルデザインを意識した学習環境づくり。	・週に1回、巡回指導教員、特別支援教室専門員と担任が連携を図る。	60	70	C	・特別な支援を要する児童に対し、教職員間で常に情報交換をして、対応を検討している。	C	・特別な支援を要する児童に対する校内体制や支援について情報提供してほしい。	B	・担任、補助員、介助員を必要に応じて配置したことで、個に応じた支援体制を整えることができた。	B	・特別な支援を要する児童が全体的に減っているように思える。教室を抜け出す子がいないかった。	・特別な支援を要する児童に対し、組織的、効果的な対応ができるよう状況共有を図る。
	○エンカレッジルームの活用促進	・エンカレッジルーム使用の約束、指導方針を決め、必要な児童のために環境を整える。	・生活指導部を中心に、使用上の留意点を随時見直し効果的に活用する。	80	80	B	・エンカレッジルームの使用の約束を確認した。現在利用者はゼロ。	B	・エンカレッジルームを利用した児童のその後の状態や経過を知りたい。	B	・常時、エンカレッジルームを利用する児童はいなかった。過去の利用者も教室で友達と過ごすことができていた。	A	・エンカレッジルーム使用者がいないことは何より。教室での支援を続けてほしい。	・本当に必要な児童に、よりよい環境を整えておく。
	○副籍交流及び共同学習の実施充実	・副籍交流、共同学習の推進を図る。	・月に1回の学校だより等の交換や体験的な交流学習を設定する。	70	70	B	・月に1回、給食をともに食べる機会を設けている。今後は体育の授業での交流を計画する。	B	・副籍交流により共生社会の実現に向かう。	B	・各種お便りの交流、月1回の本校での副籍交流を実施した。	B	・共生社会の実現を目指してほしい。	・必要に応じて交流の場を検討し、共生を目指す。
不登校・いじめ対応	○いじめ、不登校の未然防止、早期発見、早期解決	・年3回のアンケート、毎日のL-gateを活用し、児童の変化を早期に捉える。	・未然防止、早期発見、早期解決を目指す。新規不登校の発生をゼロにする。	80	80	B	・アンケートの実施、分析を丁寧に行っている。新規不登校者は現在のところゼロ。	B	・いじめの未然防止、早期発見に努めてほしい。	B	・年3回のアンケート、日常のきめ細かな指導を徹底、共有することで早期解決できた。	A	・不登校の広がりがなく安心した。	・組織的に対応する流れが定着しているため、未然防止に力を注ぐ。
	○組織的な対応の確立	・児童の変容を察知し、いじめ対策委員会を早期に開き、組織的に対応を検討実行する。	・毎日、放課後の時間を活用し、児童の様子を詳細に把握する。	80	80	B	・いじめに関する研修を実施し、組織的にきめ細かく児童の様子を見守っている。	B	・学校全体として組織的に見守り続けてほしい。	B	・組織的、計画的に早期対応することができ早期解決へ導くことができた。	B	・学校全体で見守ってくれていることを感じた。	・いじめが起きにくい環境づくり、心理教育プログラムを充実させていく。

